

第1章 子どもの読書活動推進計画策定の目的

1 子ども読書活動推進計画策定の目的

今日、テレビやインターネット、携帯電話等さまざまな情報メディアの進歩・普及により、私たちを取り巻く生活環境は、めまぐるしく変化をしています。このような社会の急激な変化は、子どもたちの心身の発達に影響を与え、読書離れや活字離れが懸念されています。

子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を高め、人生をより豊かに生きるための力を身につける上で、読書活動はたいへん重要なものとなっています。子どもたちが本との出会いを楽しみながら、自然に他人を思いやる心や人生の知恵を身につけることができるよう、読書活動を強く推進する必要があります。

このような中、国は子どもの読書活動の重要性を踏まえ、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、翌平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。（平成20年3月に改定）

また、茨城県においては、平成16年3月に国の計画を基本とした「いばらき子ども読書活動推進計画」を策定し（平成22年1月に改定）、家庭・地域・学校等が一体となって取り組むための施策を示しました。

これらの国や県の動向を受け、本市においても子どもの読書活動の現状等を踏まえた「ひたちなか市子ども読書活動推進計画」を策定することにより、子どもの豊かな心の育成を推進していきます。

2 子どもの読書の現状

（1）全国調査に見る子どもの読書状況

平成21年6月調査の「第55回学校読書調査」（全国学校図書館協議会・毎日新聞社共同実施）によると、5月の1か月間に読んだ平均読書冊数は、小学生8.6冊、中学生3.7冊、高校生1.7冊になっています。一冊も本を読まなかった児童生徒は、小学生5.4%、中学生13.2%、高校生47.0%となっています。

また、朝の斉読書を実施している学校は、全国で小・中学校約76.0%、高等学校約41.0%となっています。

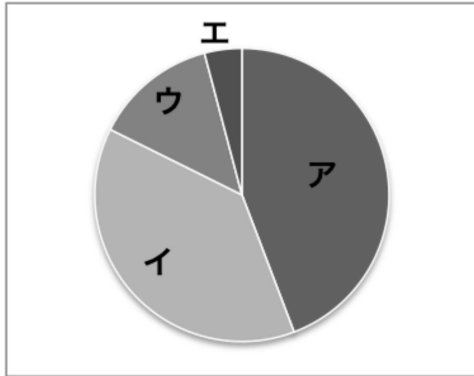
そのような中、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第4条において、「地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する」とされており、地方公共団体自らの判断と責任の下、必要な体制の整備等に努めることが求められています。

（2）読書状況についてのアンケート調査

市においては、平成22年10月に、小中学生2,534名、幼稚園、小・中学校教職員758名、保護者2,225名を対象として、子どもの読書活動に関するアンケート調査を実施しました。その結果については、次のとおりです。

① 子どもの読書観について

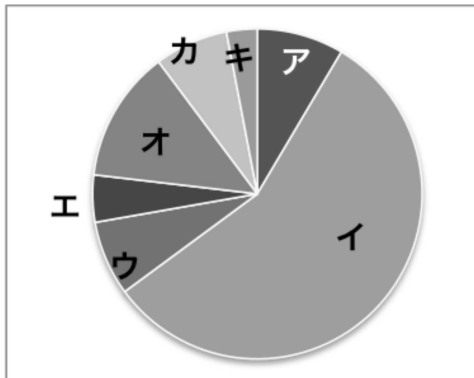
○ 本が好きか



ア 好き	44.2%
イ どちらかといえば好き	38.1%
ウ どちらかといえば嫌い	13.5%
エ 嫌い	4.1%

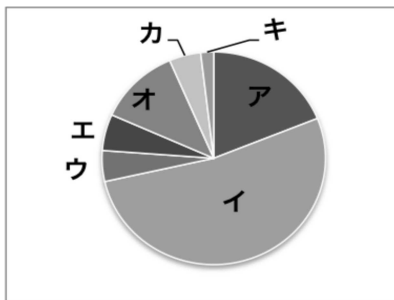
※ 読書が好き、あるいはどちらかといえば好きと答えた児童生徒が82.3%おり、全校で取り組んでいる「朝の読書」が定着していることもあり、本に親しむ素地が育っていると考えられます。

○ 好きな本のジャンル

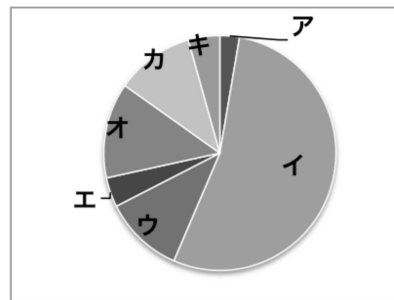


ア 絵本	8.5%
イ 物語・小説	56.4%
ウ 伝記・歴史	7.3%
エ 科学	4.6%
オ スポーツ・趣味	12.9%
カ 学習マンガ	7.2%
キ その他	3.0%

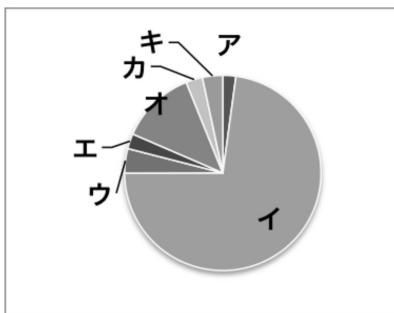
(小学校低学年・高学年・中学校別 好きな本のジャンル)



小学2年生



小学6年生

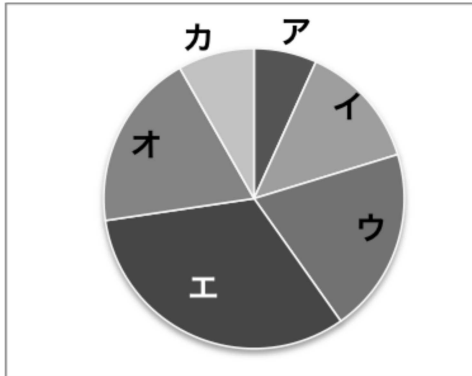


中学生

※ どの学年においても、物語・小説への興味関心があり、次に小学校低学年では「絵本」、高学年や中学生では「スポーツ・趣味」、「学習マンガ」への関心がある結果となりました。

② 子どもの読書状況について

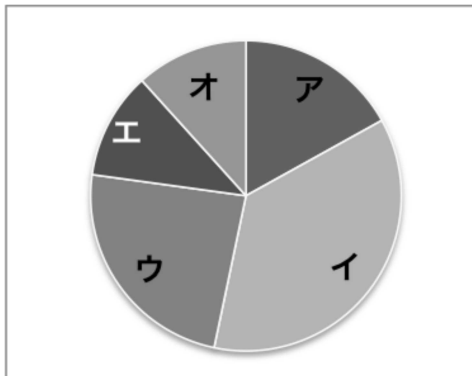
○ 1日に読書をする時間



ア	60分以上	6.8%
イ	30~60分	13.5%
ウ	20~30分	19.9%
エ	10~20分	32.4%
オ	10分未満	19.1%
カ	読まない	8.2%

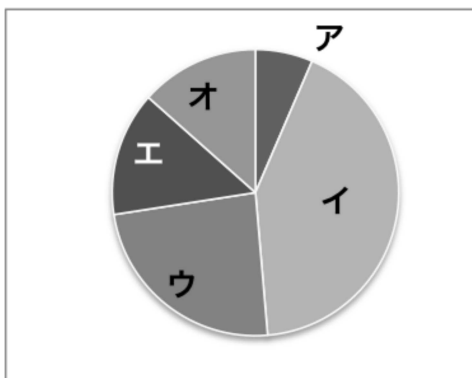
・各小中学校で取り組んでいる「朝の読書」
(10~15分) も含んでいます。

○ 1週間に家で読書をする日数



ア	週に1日も読まない	16.9%
イ	1~2日	36.4%
ウ	3~4日	23.9%
エ	5~6日	11.1%
オ	毎日	11.7%

○ 1ヶ月に読む本の冊数

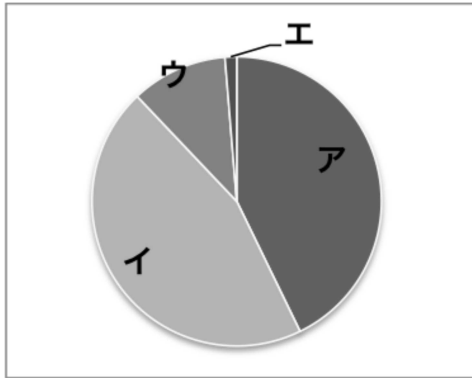


ア	読まない	6.5%
イ	1~3冊	42.2%
ウ	4~6冊	23.9%
エ	7~10冊	14.0%
オ	11冊以上	13.4%

※ 読書状況については、1日に10~20分、1週間に1~2日、1ヶ月で1~3冊
読んでいる児童生徒の割合が多い結果となりました。

③ 保護者の読み聞かせについて

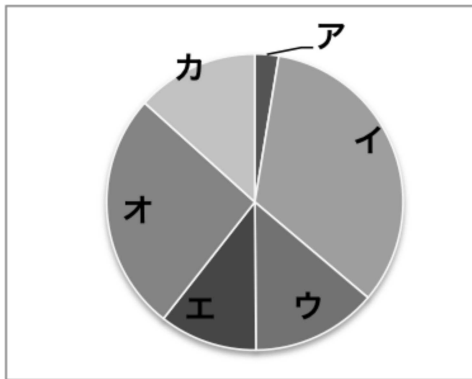
○ 子どもに読み聞かせの経験がある保護者



ア	よくある	42.8%
イ	ときどきある	45.1%
ウ	あまりない	10.8%
エ	ない	1.3%

※ 「よくある」と「ときどきある」を合わせて87.9%となります。多くの保護者が読み聞かせを行っていることが窺えます。

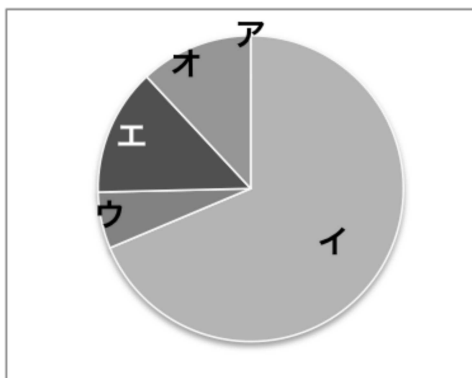
○ 読み聞かせのきっかけ



ア	ブックスタート事業	2.6%
イ	育児書やメディアからの情報	33.6%
ウ	保育所や幼稚園の薦め	13.7%
エ	図書館などからの薦め	10.7%
オ	家族や友人の薦め	26.1%
カ	自分が本を好きだから	13.3%

※ 育児書や家族・友人，保育施設からの勧めで，読み聞かせをはじめた保護者が多い結果となりました。

○ 読み聞かせを行わなかった保護者の理由

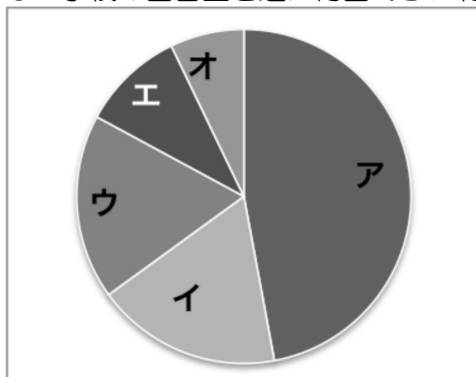


ア	あまり大切だとは思わない	0%
イ	時間がない	68.7%
ウ	読み聞かせについて知らない	6.0%
エ	どんな本がよいかわからない	13.4%
オ	その他	11.9%

※ 読み聞かせをする時間がとれない保護者も多く，本の選び方等を知ることによって，さらに読み聞かせを行うことができる保護者もいると考えられます。

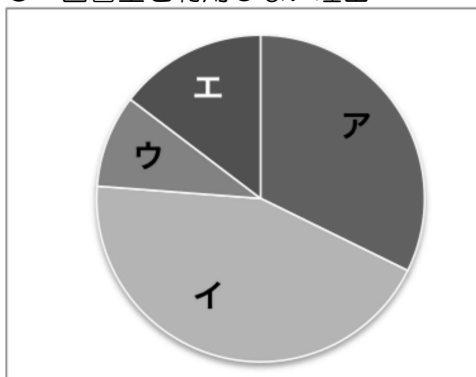
④ 学校の図書室の利用状況について

○ 学校の図書室を週に何回ぐらい利用するか



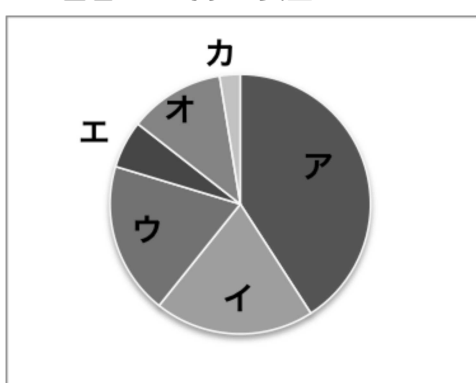
ア	利用しない	47.1%
イ	1回	17.9%
ウ	2～3回	17.9%
エ	4～5回	10.0%
オ	6回以上	7.1%

○ 図書室を利用しない理由



ア	読みたい本がない	32.3%
イ	利用する時間がない	43.9%
ウ	本そのものを読まない	9.2%
エ	その他	14.6%

○ 図書室に対する要望

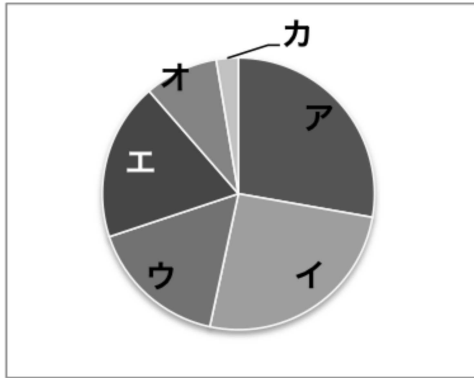


ア	新しい本を入れる	40.9%
イ	本を探しやすくする	19.8%
ウ	いつでも利用できるようにする	19.0%
エ	机・テーブルを増やす	5.9%
オ	他の学校や市立図書館の本も見られるようにする	11.8%
カ	その他	2.6%

※ 半数近くの児童生徒が、学校図書館を「利用しない」と答えています。図書室を利用しない理由には、「時間がない」という答えが最も多く、忙しい学校生活を送っている児童・生徒が多いことが窺えます。「読みたい本」や「新しい本」を揃えたり、「本を探しやすくする」工夫、「いつでも利用できる」環境づくりに努め、魅力のある学校図書館運営を目指す必要があります。

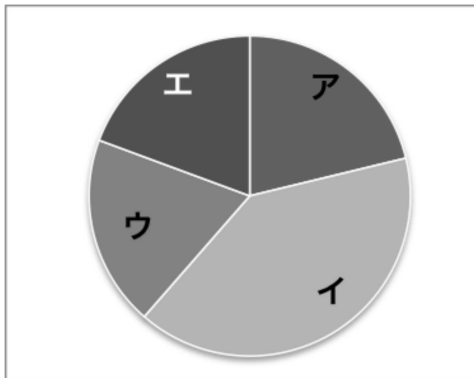
⑤ 市立図書館の利用状況について

○ 市立図書館の利用頻度（児童生徒）



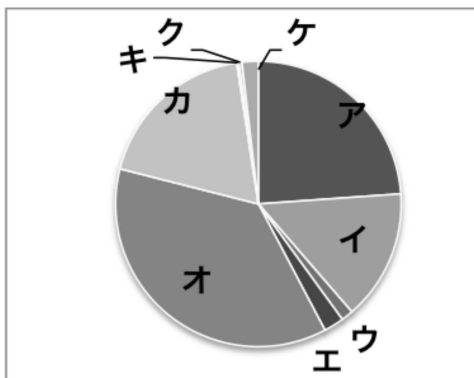
ア	借りたことがない	27.8%
イ	1年に1回	25.6%
ウ	学期に1回	16.5%
エ	1月に1～2回	18.7%
オ	週に1回程度	8.8%
カ	その他	2.6%

○ 市立図書館をどのくらい利用するか（保護者）



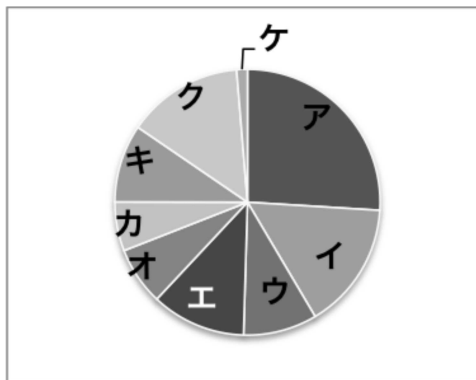
ア	よく利用する	21.2%
イ	時々利用する	40.2%
ウ	あまり利用しない	19.3%
エ	利用しない	19.3%

○ 利用する目的は何か（保護者）



ア	自分が読む本を借りる	23.9%
イ	読んだり調べたりする	14.8%
ウ	学習室を利用する	1.4%
エ	行事に参加する	2.3%
オ	子どもが利用するため	36.7%
カ	子どもに読ませる本を借りる	18.6%
キ	待ち合わせ	0.2%
ク	チラシを手に入れる	0.4%
ケ	その他	1.8%

○ 市立図書館を利用しやすくするには（児童生徒）



ア	新しい本を増やす	26.0%
イ	貸し出し期間を長くする	15.5%
ウ	読書や調べものの場所を増やしてほしい	9.0%
エ	おすすめの本を教えてほしい	11.5%
オ	移動図書館がほしい	7.1%
カ	学校から市立図書館にある本が分かるようにしてほしい	6.0%
キ	図書館にある本を予約できるようにしてほしい	9.5%
ク	市立図書館の本を学校で借りられるようにする	14.2%
ケ	その他	1.3%

※ 市立図書館の利用については、「週に1回程度利用」する児童生徒が8.8%いるのに対し、「借りたことがない」「1年に1回程度利用」という回答も53.4%見られます。また、保護者は、子どもが利用するために時々利用することが多いと回答しています。新刊を充実させ、図書館の本を学校でも貸し出しするなど、さらなる利用や活用を促進する方策を考える必要があります。

アンケート調査から見える本市の子どもの読書状況

アンケート結果から見ると、本市の小中学校においては、1ヶ月に1冊以上の本を読む児童生徒の割合は93.5%となっており、全国平均を上回っています。これは、これまで各学校が取り組んできた「朝の読書」や茨城県教育委員会が進めてきた「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」等が一定の成果を挙げているものと考えられます。

しかし、学校の図書室の本を借りたり、図書室を利用したりする児童生徒の割合は、あまり高いとは言えず、十分に活用できている状態とは言えません。

また、市立図書館の利用に関しても、よく利用する子どもとそうでない子どもとの差が大きく、さらに利用を促すための手立てが必要であると思われます。

特に、忙しい毎日を送っている児童生徒の読書への関心を高めることと、読書の機会を充実させる工夫とが重要であると考えます。